

自己評価結果公表シート(平成 31 年度)

学校法人山脇学園 友星幼稚園

1. 本園の教育

目標:身体は元気に 心は豊かに
方針:やさしく思いやりのある子ども
強くたくましく元気な子ども
豊かな感性をもつ子ども

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

評価項目に沿って自己評価を実施することで、教職員自らが客観的に自園を見つめ直し、それぞれの課題を見出す。

3. 評価項目の取組状況

評価項目	取組状況
指導計画策定	幼稚園教育課程に基づき、各項目に対する指導計画を各学年、各学期毎に加筆、修正を行う。
特別支援教育	教育研究所や市の福祉医療等関係機関と連携し、心理指導員の助言をもとに個別の支援方法に務める。
子どもの安全	全教職員が子ども達の安全管理者としての意識を高め、遊具の点検及び園庭等の安全確保に務める。
園内研修の充実	教職員が互いの保育を建学し、意見や気づいた事を出し合うことにより、自らの保育を見直すとともに教育の質の向上に努める。
災害から子どもを守る	月一度の避難訓練時に、その時に応じた安全な避難経路の確保や避難方法を検討し、子どもの安全確保に努める。
保育業務の分散化	これまで教職員がすべて取り組んできた業務を分散させ、教職員の負担を軽減させる。送迎バスの添乗、預かり保育の専任担当等、職員を増員して担任の負担を軽減させる。

子育て支援	早朝保育(午前8時～8時45分)預かり保育の時間延長(午後7時まで)及び利用者の拡充に努める。
-------	---

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

全教職員が話し合うことにより、取り組むべき課題に対する共通の理解をもつことが出来た。また、それぞれが自己評価することにより、本園の保育を再確認するとともに方針を明確にした。

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
コロナ禍における幼児教育	園児・保護者・職員それぞれの健康を考慮しながら、従来行っていた行事を変更・改善を検討する。
自然環境を活かした保育	恵まれた自然環境を活かした保育を推進する。また、従来の田植え・稲刈り・さつまいも収穫だけでなく、菜園での野菜作りなど土と親しむ遊びを通した保育(食育)の充実を図る。

6. 学校関係者の評価

年度末に新型コロナウイルスが流行しはじめ、例年通りの卒園式とはいかなかったが、幼稚園と保護者それぞれ安全を考慮しながら行えた。また今後どのような形で幼稚園行事を行っていくのか、幼稚園と保護者が連携を更に密にしなが、取り組んでいく必要がある。